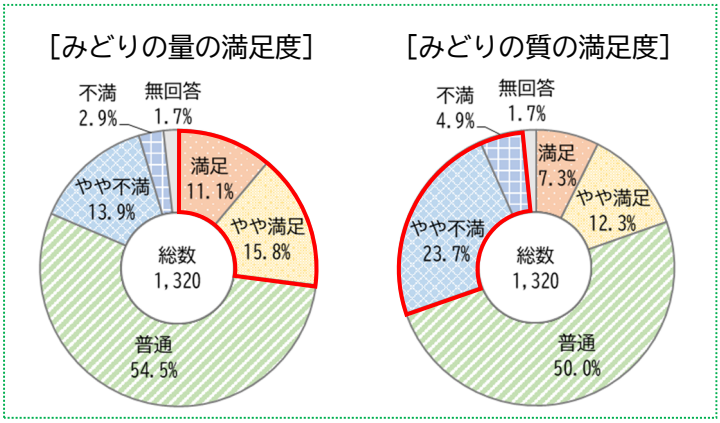
（3）市民アンケート調査

本市のみどりの取組みに対する市民の率直な意見を把握するため、「佐倉市みどりの基本計画」に関する市民アンケート調査を実施しました。

［実施概要］
調査時期：令和４年９月　　調査対象：市内在住の 18 歳～79 歳（無作為抽出）
配布数　：3,000　　回収数　：1,320　　回収率：44.0%

◆みどりの量と質の満足度

○市全体のみどりの量については、満足度が高く、みどりの質では、満足度が低い傾向となっています。
このことから、みどりの量のさらなる確保よりも、みどりの質が向上する保全や活用、再整備といった対応が求められています。

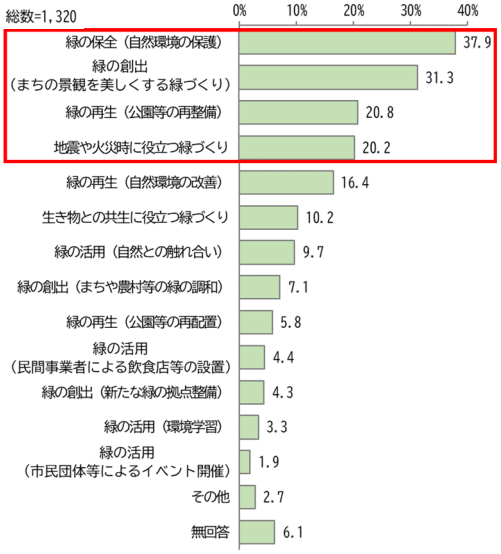


◆今後目指すみどりづくりの目標

○市のみどりづくりの目標として、自然保護や景観づくり、公園再整備等を望む人が多くなっています。
○年齢別では、30 歳代～70 歳代では自然環境の保護、まちの景観を美しくするみどりの創出、10 歳代～20 歳代では公園等の再整備を望む人が多くなっています。

［みどりづくりの目標］

［全体］



［年齢別］

		1位		2位		3位		4位		5位	
年齢別	10歳代～20歳代（n=97）	公園再整備		景観		自然保護		防災		自然改善	
		26票	26.8%	22票	22.7%	21票	21.6%	17票	17.5%	15票	15.5%
	30歳代～50歳代（n=541）	自然保護		景観		公園再整備		防災		自然改善	
		200票	37.0%	174票	32.2%	123票	22.7%	105票	19.4%	86票	15.9%
	60歳代～70歳代（n=668）	自然保護		景観		防災		公園再整備		自然改善	
		276票	41.3%	211票	31.6%	144票	21.6%	122票	18.3%	113票	16.9%

◆みどりとの関りについて

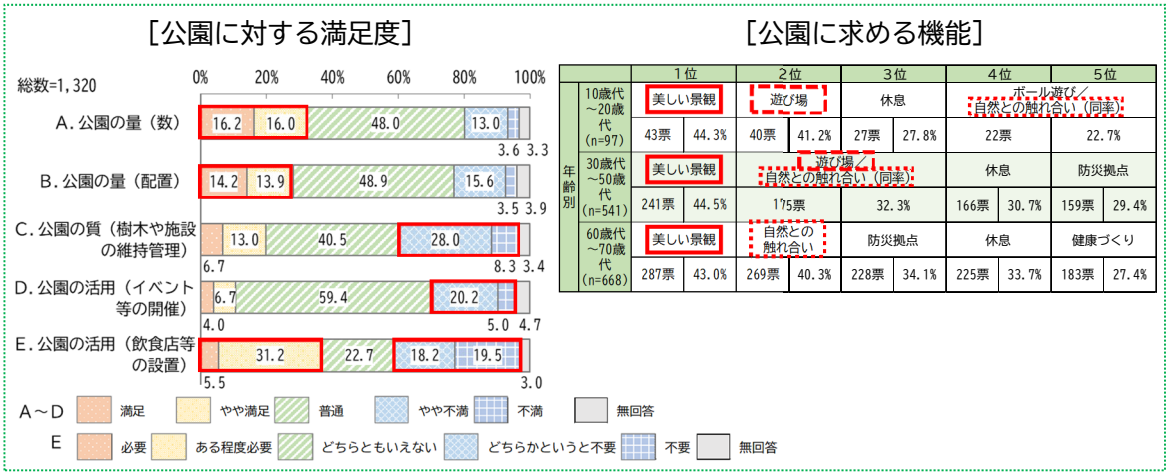
○緑化活動や自然環境保全活動への参加割合は少なく、特に若者のみどりに触れる機会が少なくなっており、参加機会を増やしていく取組が必要となっています。

○今後参加したい活動としては、身近な活動の他にも、里山や沼・河川の保全活動、自然観察会等への関心が高くなっています。

◆公園に対する満足度、求める機能

○公園の量（数・配置）では、満足度が高くなっていますが、公園の質（樹木や施設の維持管理）や公園の活用（イベント等の配置）では、不満の割合が多くなっています。

○公園に求める機能は、「美しい景観」がどの年代でも最も多く、若い世代では「遊び場」、高齢層では「自然との触れ合い」や「防災拠点」が多い傾向となっています。



[公園に求める機能]

年齢別	1位		2位		3位		4位		5位	
10歳代～20歳代（n=97）	美しい景観		遊び場		休息		ボール遊び／自然との触れ合い（同率）			
	43票	44.3%	40票	41.2%	27票	27.8%	22票		22.7%	
30歳代～50歳代（n=541）	美しい景観		遊び場／自然との触れ合い（同率）				休息		防災拠点	
	241票	44.5%	175票		32.3%		166票	30.7%	159票	29.4%
60歳代～70歳代（n=668）	美しい景観		自然との触れ合い		防災拠点		休息		健康づくり	
	287票	43.0%	269票	40.3%	228票	34.1%	225票	33.7%	183票	27.4%

本アンケート調査では、高齢者（60 歳代、70 歳代）の回答割合が約 50%と高い一方で、子育て世代（20 歳代、30 歳代）の回答割合が約 15%となったことから、他のアンケート調査を参考に子育て世代の意見を補足します。

※第 2 期佐倉市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査報告書（H31.3）
子育ての環境や支援について期待することとして、約7割が「道路や公園など子どもが安心して暮らせる環境の整備」と回答しています。

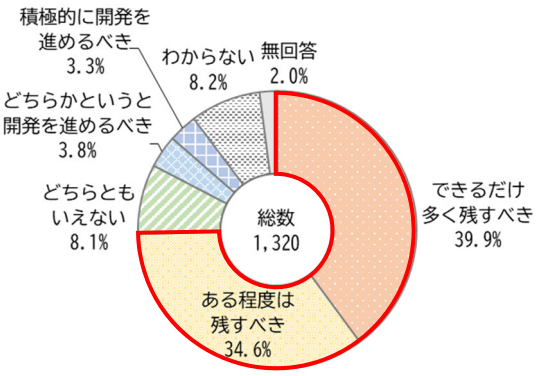
※佐倉市市民アンケート調査報告書（佐倉市都市マスタープラン）（R2.3）
公園のあり方として、「災害時に避難できる公園を整備する」意見が最も多く、次いで「現在ある公園を適切に維持・管理する」が多くなっています。

◆佐倉市の農地について

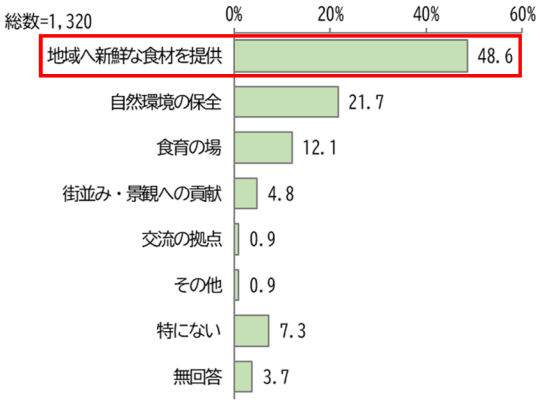
○市内の農地については、残すべきとの意見が多く、また期待することとしては、地域へ新鮮な食材の提供、自然環境の保全となっています。

○これらから、市内の農地に対しては、現状を保全しつつ、さらに活用することが求められており、保全と活用、担い手不足による耕作放棄地の増加への対策を講じる必要があります。

［農地について］



［農地に期待すること］



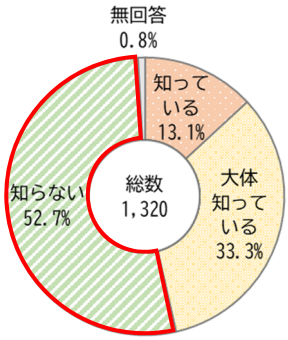
◆生物多様性について

○生物多様性については、過半数が「知らない」と回答しており、認知度が低い状況です。

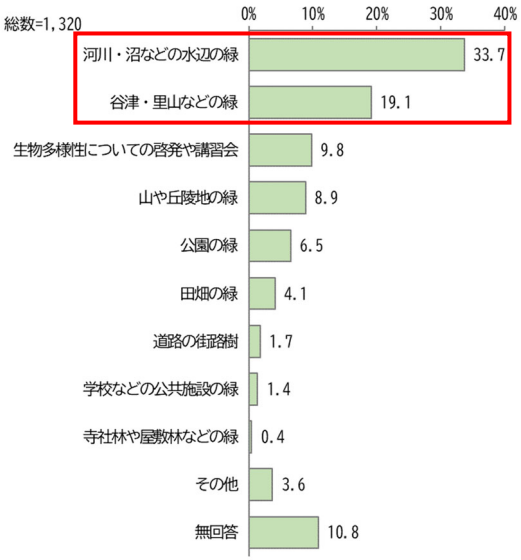
○一方で、生物多様性の保全には、「河川・沼などの水辺の緑」や「谷津・里山などの緑」が重要と考えられています。

○生物多様性の保全は、ネイチャーポジティブも含め、カーボンニュートラルに続く国際的な問題に取り上げられていることから、認知度を高めるとともに保全に向けた取組が必要となっています。

［生物多様性について］



［生物多様性の保全で重要なこと］



（4）佐倉市のみどりの課題

みどりの概要および市民アンケート調査を踏まえ、本市では以下のみどりの課題があげられます。

課題①：みどりの量の確保だけではなく、みどりの再編による適切な維持管理と質の向上（ストックマネジメント）を図る必要があります。

〔農村のみどり〕

○農村地域における谷津、里山、農地、斜面林、平地林等は貴重な自然資源であり、本市の景観や自然環境を形成している重要なみどりとなっていますが、開発による減少や、相続による管理者の不在や人口減少に伴う農業の担い手不足等により、維持・管理が困難になった結果、荒廃がみられることから、保全・再生を図っていく必要があります。

〔水辺のみどり〕

○印旛沼や河川沿川の水辺のみどりは、景観および多様な生物が生息する自然環境であり、それらの環境を維持・保全することが必要です。

〔都市のみどり〕

○都市におけるみどりは、公園や街路樹などの公的に管理されているものや、斜面林や都市農地、住宅の庭木などの民間に管理されているもので構成されています。
これらのみどりが適正に管理されている限りは、都市生活の潤いや快適性の向上、環境改善などのプラスの効果を発揮しますが、管理費用の増大に伴う市の予算不足や相続による管理者の不在などで、管理が行き届かなくなると老化・腐朽した樹木の倒壊や折れ枝による事故の誘発や、景観の乱れなど快適な都市生活を損なう要因となることが課題となっています。

○都市のみどりのうち、特に公園については、整備から 30 年以上を経過する公園が多くなってきており、みどりのみでなく施設全般の老朽化が進んでいます。既存の公園について、限られた財源の中で、安全で快適な利用をどのように維持し確保していくか、また各公園の機能や役割に応じた再編・再整備等が課題となっています。

課題②：豊かな暮らしを支える社会基盤として活用（アセットマネジメント）する必要があります。

〔グリーンインフラの活用〕

○自然環境が本来的に有する多様な機能が発揮されることで、持続可能で魅力ある地域づくりを進めることができます。本市の特徴でもある豊かな自然環境をグリーンインフラとして活用し、防災・減災、地域振興、生物生息空間の提供等につなげていくことが求められています。

〔公園・緑地の活用〕

○市民が日常の生活に楽しみや生きがいを創り、十分なスポーツやレジャー、余暇活動を行うための場を提供するため、都市公園やその他の緑地の持つレクリエーション機能の充実による利活用の向上が求められます。

課題③：市民や民間事業者のみどりへの関心を高め、関わる機会を創出する必要があります。

〔自然環境の維持・保全の取り組み〕

○谷津、里山、水辺空間といった自然環境の維持・保全においては、行政のみではなく、市民や民間事業者と連携して取り組む必要があります。

〔民間活力の活用〕

○老朽化等により利便性や利用頻度が低くなっている公園について、多様なニーズに対応するため、民間事業者の専門的な知識や技術、資金を活用しながら、公園の質を高めていくことが必要です。

〔みどりに触れる機会の充実〕

○市民ニーズに応じた整備・施策等の展開、協働によるみどりの保全・活用し、次世代への継承を図るため、みどりに触れる機会の充実が求められます。

○特に生物多様性については認知度が低く、市民の認知度向上を図るだけではなく、次世代を担う子どもたちが自然と触れ合い、自然を学び・体験する機会を提供し、カーボンニュートラルに続く国際的な問題として注目されているネイチャーポジティブ（自然生態系の損失に歯止めをかけ、回復させていくこと）の実現に向け、取り組む必要があります。